



顕彰状を受け取った三浦さん。足腰も健在

## 三浦清四郎さん100歳おめでとう

三浦清四郎さん（木造永田）が3月31日、めでたく100歳の誕生日を迎えられました。

三浦さんは大正7年生まれ。満州での兵役後、妻のトミさんと農業を営みながら、子ども4人、孫7人、ひ孫12人に恵まれました。現在は、自宅で長男・清憲さん夫婦、孫夫婦、ひ孫3人の4世代8人で生活。介護の手を全く必要とせず、食事や入浴、アイロンがけまで自分でするそうです。

4月2日、三浦さんの自宅に福島市長が訪れ、100歳を祝福。三浦さんは「規則正しい生活と、何でも自分でやることを心がけています。長生きの秘訣は週2回のデイサービスを楽しむことと、毎食後に欠かさないしょうが茶」と話していました。

## 手書きのぬくもりを大切に

NPO法人つがる野文庫の会（平川智枝子理事長）は昨年5月、直筆の手紙の良さを見直そうと市立図書館前に「まごころポスト」を設置。「ありがとうの手紙」など3部門で作品を募集し、県内外から計573作品が投函されました。

3月25日、優秀作品の表彰式が行われ、38人が受賞。式では、読書感想文の部・市長賞の大石ちえりさん（五所川原小3年）と、ありがとうの手紙の部・まごころ賞の中村美桜さん（向陽小2年）が作品を発表。受賞者を代表して脇セツさん（北海道羅臼町）があいさつし「考えを文字に書くことを大切にしてください」と子どもたちに呼びかけていました。審査対象外の「5年後10年後の自分への手紙」は、該当年に応募者に郵送します。



受賞者を代表してあいさつする脇さん（写真左）



交通安全を呼びかける館岡子供交通指導隊

## 交通事故のないつがる市を目指す

つがる市民交通事故防止総決起大会が4月6日、松の館で行われ、約180人の市民らが、交通事故のない社会の実現を誓いました。

大会では、つがる地区交通安全協会の片山徳明会長が「それぞれの立場で積極的な交通安全運動を推進し、1件でも交通事故が少なくなるようお力添えをいただきたい」とあいさつ。同安協の館岡支部と柴田支部の子供交通指導隊、もりた保育園子ども交通指導隊は寸劇や踊りを披露し「優しい運転をください」「みんなで大事な命を守りましょう」などと呼びかけました。

アトラクションでは、県警察音楽隊による吹奏楽演奏やカラガード隊の華麗な演技が大会を盛り上げました。

## 早朝パレードで火災予防を呼びかけ

春の火災予防運動期間（4月9日～15日）に合わせ、4月9日、市消防団による火災予防パレード出動式が開催され、消防団員および関係者ら63人と消防車両23台が松の館駐車場に集まりました。

式では、福島市長が「これまで以上に防火への関心を啓発し、市民が安心して暮らせるよう取り組んでください」とあいさつ。続いて、箱田鐵雄消防団長から訓示を受けた団員らは、消防車両で市内をパレードし、火災予防を呼び掛けました。

また、出動式に先立ち、新車両の引渡式も行われ、つがる市消防署に高規格救急自動車1台、市消防団に消防車両3台が福島市長より引き渡されました。



パレードに出動する消防車両

## まちの安全は自分たちで守る

4月18日、市商工会館で「春の安全・安心まちづくり推進大会」が開催され、防犯ボランティア団体や警察官ら約60名が、犯罪のない明るいまちづくりへの決意を新たにしました。

大会では、防犯指導隊の手嶋成信総隊長が「防犯ボランティアの中核として地域住民や関係団体と連携し、街頭犯罪を抑止する活動を推進していく」と決意表明。市JUMPチームを代表して川村吏生さん（木造高3年）が「非行やいじめがない明るい社会づくりに貢献することを決意します」と宣言しました。

大会終了後には、パトカーや青色回転灯防犯車が市内を巡回。市JUMPチームらは、イオンモールつがる柏で広報活動を展開し、防犯意識の向上を呼びかけました。



パトロール隊を見送る参加者



葛西教育長から辞令を受け取る支援員ら

## 児童生徒の学習活動をサポート

児童生徒の学習活動などをサポートする学校教育活動支援員（スクールサポーター）の辞令交付式が4月3日、松の館で行われ、27人に辞令が交付されました。市教育委員会では、落ち着きがない傾向や介助が必要な児童生徒などに手を差し伸べることを目的に、平成18年度からこの取り組みを開始。当初は3人でのスタートでしたが、現在は全ての小中学校に支援員を配置し、各校の教育ニーズに幅広く対応しています。交付式では、葛西教育長が「教育の現場では皆さんの力が不可欠。つがる市が教育のまちとして知られるように、一緒にがんばりましょう」と激励。稲垣中に配属される工藤寿美子さんは「子どもたちに寄り添い、見守っていきたい」と話していました。

## （株）木村牧場が「JGAP」認証を取得

木造丸山の養豚業、株式会社木村牧場（木村洋文社長）が3月30日、食の安全や環境保全などに取り組む農場に与えられる「JGAP」認証を取得しました。

県内の認証取得は、同社を含めりんごや野菜も合わせて6件で、畜産物の分野では県内初。2020年東京オリンピックで使われる食材がGAP認証農場で作られたものに限られることから、オリンピックへ食材提供することを目標に申請したそうです。

4月9日、木村社長が市役所を訪れ福島市長らに喜びを報告。「オリンピックで採用されれば、つがるの米で育った豚肉を世界の人に食べてもらえる。市産の農産物と一緒に盛り上げていければ」と意気込みを話していました。



オリンピックや地域貢献への思いを語る木村社長



JR木造駅舎前で行われたお出迎え

## 豪華列車「四季島」乗客をお出迎え

市観光物産協会などは4月18日、JR木造駅を訪れた「トランスイート四季島」乗客の出迎えと見送りをを行い、市の観光PRを行いました。トランスイート四季島は、JR東日本が運行する豪華寝台列車。沿線では、乗客を歓迎し地域の魅力をPRしようと、各地の特色を出した催しが行われています。

この日は、同会会員や地域住民など約20人が参加し、新青森駅からバスで移動する一行をお出迎え。市登山囃子保存会メンバーが演奏を披露したほか、つがるちゃんが乗客と交流。最後は、列車で出発する一行にみんなで手を振って見送っていました。この催しは、9月末まで毎週水曜日に行われ、夏場はメロン・スイカの試食などで市をPRします。